

大垣市立青墓小学校4年2組の総合的な学習の時間において、木曾川上流河川事務所が作成した防災教育教材(学習指導・発問計画、板書計画、その他の教材(自然災害の映像、自然災害に関する資料、浸水深等身大パネル、ワークシート等))を用いた授業が実施されました。

- 日時：令和3年1月20日(水) 10:40~11:25 (45分)
- 場所：大垣市立青墓小学校
- 対象：4年2組(30名)
- 担当：青墓小学校 矢橋先生
- 教材：発問計画(教員用)
 - ：板書計画(教員用)
 - ：提示資料(岐阜県の自然災害の年表や位置図、青墓小学校版ハザードマップ、浸水深等身大パネル、「9.12豪雨災害」時の被災写真)
 - ：映像資料(「豪雨災害の報告」元安八町長 丹羽正治氏の講話)
 - ：ワークシート(学習でわかったこと、考えたことを記入するプリント)

- 【授業の内容(青墓小学校4年2組の例)】
- テーマ 1. 過去の自然災害※
- ①導入：岐阜県の主な自然災害の年表と位置図を見て、自然災害を意識する。
 - ②展開前段：青墓小学校版ハザードマップを提示し、児童一人々が地図上で自宅の場所を確認して、自宅の状況を確認する。
 - ③展開後段：9.12豪雨災害の体験者の話(映像資料)を聞いて、水害の恐ろしさ・大変さを知る。
 - ④終末：体験者の話を聞き、被災写真等を見て、感じたことを発表した後、ワークシートに授業を通して学んだこと・感想をまとめる。
- ※今回は4テーマある内の1つを授業で取り扱いました。

【木曾川上流河川事務所が提供した教材の例】

発問計画・学習教材

<p>1. 過去の自然災害</p> <p>本時のねらい(目標)：歴史や地理を通して、これまで様々な自然災害(社会発展に際して起こってきたこと)と関わり、自然災害(自然災害)の被害者の体験(ビデオ映像)を通して被害の大きさについて理解し、水害を自分事として認識する。</p> <p>※指導「問」は、手渡される児童の発達(見聞)に合わせた発問を提示する。</p>	<p>発問のポイント</p> <p>1. 自然災害を認識する。</p> <p>発問：「過去に、自然災害の被害を受けている地域を地図で見ると、(画像を提示)」「被害を受けた地域は、どのような地域か?」「被害を受けた地域は、どのような地域か?」「被害を受けた地域は、どのような地域か?」</p>	<p>発問のポイント</p> <p>2. 自然災害の被害の大きさについて理解する。</p> <p>発問：「自然災害の被害を受けた地域は、どのような地域か?」「被害を受けた地域は、どのような地域か?」「被害を受けた地域は、どのような地域か?」</p>
<p>2. 自然災害の被害の大きさについて理解する。</p> <p>発問：「自然災害の被害を受けた地域は、どのような地域か?」「被害を受けた地域は、どのような地域か?」「被害を受けた地域は、どのような地域か?」</p>	<p>発問のポイント</p> <p>3. 自然災害の被害の大きさについて理解する。</p> <p>発問：「自然災害の被害を受けた地域は、どのような地域か?」「被害を受けた地域は、どのような地域か?」「被害を受けた地域は、どのような地域か?」</p>	<p>発問のポイント</p> <p>4. 自然災害の被害の大きさについて理解する。</p> <p>発問：「自然災害の被害を受けた地域は、どのような地域か?」「被害を受けた地域は、どのような地域か?」「被害を受けた地域は、どのような地域か?」</p>

ワークシート：過去の自然災害

10.12豪雨災害での被害写真

10.12豪雨災害での被害写真

10.12豪雨災害での被害写真

ワークシートの例

わたしたちのハザードマップ 青墓小学校版

発問計画の例

発問計画の例

板書計画の例

今日の課題：岐阜県では、どんな自然災害が起きているのだろうか。

岐阜県の自然災害

この地域での洪水の恐ろしさ

まとめ

- ・岐阜県では、いつでも、どこでも、様々な種類の自然災害が発生している。
- ・自分の住む地域でも洪水被害があるかもしれない。
- ・特に、「9.12豪雨災害」は大きな被害をもたらした水害で、多くの人が大変な苦勞をした。

浸水する様子を確かめてみよう!

9.12豪雨災害 資料5

岐阜市内の被害写真

提示資料の例

【木曾川上流河川事務所が作成した教材の授業での活用例】



授業の導入部で、岐阜県の自然災害の年表や位置図を使って、自然災害について意識させる



一人一人がハザードマップ上で自宅の場所を探し、水害が起きた場合に浸水する深さを確認



「9.12豪雨災害」体験者の話(映像資料)を聞いて、水害の恐ろしさ・大変さを知る



被災写真や資料を見て、わかったことや感じたことを発表



授業を通して、わかったことや自分で考えたことをワークシートに記入

～みんなの声～

- ・「9.12豪雨災害」体験者の話を聞いて、目の前で堤防が決壊するところを見たというのは怖かったらうなと思いました。
- ・水害は、長い堤防の一部が切ただけでも、町全体が浸水することに驚きました。
- ・「9.12豪雨災害」のようなことは二度と起きてほしくないと思いました。
- ・今日の授業を通して、たくさんのお話を学びました。当時の様子や経験した人のお話の映像を見て、怖くて大変だったらうなと思いました。

【木曾川上流河川事務所が作成した教材の授業での活用例】



授業の導入部で、何のための施設か考えながら、様々な河川施設について学習



行政カードにより、誰がどの河川施設を作っているのか整理



水害対策には、ハード対策とソフト対策があることを学び、両者の違いを把握



河川施設の写真・名称・内容を結び付けるクイズに挑戦



クイズの回答を隣の人と見せ合い結果を確認する

～みんなの声～

- 国土交通省の人は、いろいろやらないといけなくて大変だと思いました。
- 通学路の途中で、樋門を見たことがありました。
- 河川防災ステーションは、水防団が作っているのだと思っていましたが、国土交通省が作っていると知りました。
- 河川パトロールや排水機場・ポンプ場操作を国土交通省、県、市の人が行っていることを知りました。

【木曾川上流河川事務所が作成した教材の授業での活用例】



水防倉庫やその中の備品の写真などにより
地域の防災設備について知る



訓練や陸開の操作・点検など
水防団の具体的な活動内容について知る



水防団の人の話の映像資料を視聴し、
活動にあたっての大変さと想いを感じ取る



水防団の活動やその大変さを知って、
感じたことや思ったことを発表



災害を防ぐ地域の取り組み(共助)について、
わかったこと、思ったことをワークシートに記入

～みんなの声～

- 水防団の人達は普段は別の仕事をしながら、いざとなったら住民を守るということが分かりました。
- 水防団の人は自分の命も危ない状況なのに、他の人の命を助けようとするのがすごいと思いました。
- 水防団の人たちに「ありがとう」と思いました。
- 今日の授業を通して、一人にできることは多くないけれど、一人一人が協力して助け合える地域を作りたいと思いました。

大垣市立青墓小学校4年1組の総合的な学習の時間において、木曾川上流河川事務所が作成した防災教育教材(発問計画・学習教材、板書計画、その他の教材(マイ・タイムラインの紹介映像、小学校版ハザードマップ、ワークシート)等)を用いた授業が実施されました。

- 日時：令和3年1月29日(金) 10:40~11:25 (45分)
- 場所：大垣市立青墓小学校
- 対象：4年1組(30名)
- 担当：青墓小学校 中島先生
- 教材：発問計画(教員用)
：板書計画(教員用)
：映像資料
(マイ・タイムライン紹介映像)
：提示資料
(警戒レベル、タイミングカード、キーワードカード等)
：ワークシート
(小学校版ハザードマップ、マイ・タイムライン作成シート)

【授業の内容(青墓小学校4年1組の例)】
●テーマ 4. 私たちができること(自助について)※

- ①導入：マイ・タイムライン紹介映像を視聴して、水害に対して備えているかで、水害時のスムーズな避難を左右することを意識
- ②展開前段：タイミングカードを提示し、カードの示す警戒レベルについて整理。続いてキーワードカードを提示し、どのタイミングでどの行動を取るべきかを考える
- ③展開後段：自分たちが避難するときは、何が必要か考えながら自分なりのマイ・タイムラインを作成する
- ④終末：自分で自分を災害から守る取り組みを意味する「自助」という言葉を学び、授業全体を通しての感想を発表
※今回は4テーマある内の1つを授業で取り扱いました。

【木曾川上流河川事務所が提供した教材の例】

発問計画・学習教材
4. 私たちができること(自助について)
本時のねらい(自助) 水害に備えている状況と、準備していない状況の違いを比較する。
水害に準備があることと準備不足、避難の遅延の危険性を理解し、自分自身で準備することの重要性を認識する。
※授業資料は、事前に準備しておくこと。授業開始時に配布する。

発問計画の構成
【導入】マイ・タイムラインの紹介映像を視聴し、水害に備えているかどうかを確認する。
【展開前段】警戒レベルのカードを提示し、どのタイミングでどの行動を取るべきかを考える。
【展開後段】自分たちが避難するときは、何が必要か考えながら自分なりのマイ・タイムラインを作成する。
【終末】自分で自分を災害から守る取り組みを意味する「自助」という言葉を学び、授業全体を通しての感想を発表する。

マイ・タイムラインをつくってみよう!!
自分の家族や大切なものを、水害に備えておく。自分自身で準備することの重要性を認識する。
自分の家族や大切なものを、水害に備えておく。自分自身で準備することの重要性を認識する。

マイ・タイムライン作成シート
自分の家族や大切なものを、水害に備えておく。自分自身で準備することの重要性を認識する。

板書計画 4時間目「わたたちができること(自助について)」
今日の課題：洪水から命を守るために、わたしたちができることはなんだろう
ハザードマップで危険箇所を知ろう 自分、どのようなことができるだろう
まとめ
水害は地震とは違って突然くるのではなく、情報を確認して避難ができる。
事前の準備が自分や周りの命を助けることになる。
家に帰って、洪水が起るかもしれないときにどうするか、家族で話し合おう。

提示資料の例
○ ひなん所、ルートを確認する
○ 持ち物さげしげんに準備する
○ 情報を確認する
○ ひなん所に、ひなんする
○ 高い土地や高い建物へにげる
○ 低い土地へにげる
○ 川のようなところに行く
○ ひなん所の生活

発問計画の例 板書計画の例 ワークシートの例 提示資料の例

【木曾川上流河川事務所が作成した教材の授業での活用例】



マイ・タイムライン紹介映像を視聴し、
水害に対する備えの大切さを意識



タイミングカード、キーワードカードを用い、
自分たちの行動とタイミングについて整理



学校の防災倉庫の中の備品を確認し、
自分たちの避難にも必要かどうか考える



タイミングカード・キーワードカードを参考に
しながら、マイ・タイムラインを作成



自分で自分を助ける“自助”という言葉を学び、
授業全体を通しての感想を発表

～みんなの声～

- 避難するときに必要な備品、やってはいけないことを学び、水害が起きた時に活かしたいと思いました。
- 情報確認をして避難することが大切だと分かりました。
- たくさんの方が「公助」や「共助」を
していても、災害は起きてしまうものなので、自分の命を守るために「自助」を
しなければならないと思いました。